先輩と語ろう！

QRコード開発者

原 昌宏 氏 講演会

2025年1月25日（土） 14:00～16:00

法政大学第二中・高等学校 木月ホール **参加無料**

第1部 14:00～15:00 原 昌宏 氏講演会
第2部 15:15～16:00 ワークショップ with 原 昌宏 氏

← 参加申し込みはこちらからお願いします。

意外と知らない…「QRコード」を開発したのは日本人、その知られざる開発秘話

知恵とアイデアの“驚き技術”

スマホ決済に飛行機・電車のチケット、サイトのURL読み取りなど「QRコード」は、わたしたちの暮らしに欠かせないものになっています。

QRとは“Quick Response”(クイック・レスポンス)の略で、その名の通り、0.03秒という超高速で読み取り可能であることが最大の特徴です。 しかも、コードに格納できる情報量は バーコードのおよそ200倍。 数字なら最大7089文字、英数記号や漢字だって格納することが可能です。

このQRコードを開発したのは日本のエンジニアということをご存じでしょうか。もともと工場の生産管理のために開発されたもので、生みの親である産業機器メーカーの原昌宏さんが、低予算かつ短期間で開発するために知恵とアイデアを振り絞った発明品だったのです。(中略)

QRコード発明者 原 昌宏 氏

“低予算”かつ“短期間”で開発されたQRコード

QRコードの開発が始まったのは1992年、バブル崩壊の時期でした。当時、自動車工場の部品管理で使われていたバーコードは格納できる情報量が少なく、たくさんの数・量を使わなければなりませんでした。さらに、工場の油などで少しでも汚れると、正確に読み取れないこともありました。

開発者の原さんは、開発が始まった経緯をこう語ります。

「バブルが崩壊して、それまで普及していた会社のバーコード事業も窮地に立たされたので、上司から、次の新たな市場を創造するものを作るよう命じられました。 当時はあまり予算が付けられなかったので、ハードウェアの開発は断念し、知恵とアイデアでできるコード開発をしようと決めました。 私たちは企業での開発なので、『2年くらいでやらないと次はないのかな』という気持ちで、2年という形で期間を設定してやらせてもらったんです」(原さん)

原さんは約束通り、わずか2年で大量の情報を高速で読み取る技術を完成させ、1994年8月8日に「QRコード」と命名したのです。そして、今これほどまでに社会で普及することになったのは、「皆で使ってもらいたい」という思いから、 特許を取りつつも権利交渉なしに自由に使えるパブリックドメインにしたことが理由の1つではないかと話します。 そんな原さんは、最初に街中でQRコードを見たときのことは今でも覚えていると言います。

(中略)

「実験室でいろいろ考えて、実験しても、失敗した時に早急な対応は取れないので、現場にいたほうが良いと思っています。 経験上、さらに改良を加えたい時には、やはり現場を見ていないとできません。非常に大事な現場に、わたしは極力行くようにしています。単に現場好きなのかもしれませんが」(原さん)

QRコードによって、わたしたちの暮らしはより便利なものになり、世界中で使われるようになりました。現場に足を運び、ユーザー目線で開発を続けてきた原さんは、今に留まることなく、医療や災害など新たな分野での活用も期待しています。

参考文献資料:「NHK サイエンスZERO」より抜粋 https://www.nhk.jp/p/zero/ts/XK5VKV7V98/blog/bl/pkOaDjjMay/bp/p2peqz9pg5/

原 昌宏 はら まさひろ

略歴 1957年東京都生まれ。法政大学第二高等学校を経て法政大学工学部電気工学科卒業後、80年に日本電装(現・デンソー)入社。94年にQRコードを開発し、2001年、分社化に伴いデンソーウェーブに転籍。14年に欧州発明家賞、23年に恩賜賞・日本学士院賞を受賞。現在、エッジプロダクト事業部の主席技師。2023年、法政大学より、名誉博士号を授与。QRコードと命名された8月8日は、自身の誕生日。